

日露戦争

1 / 1

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

江戸

明治

大正

今日の問い

日露戦争はなぜ起こり、戦争の結果、日本の国際的な立場はどう変わったのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 日英同盟とロシアの南下

日英同盟

義和団事件

1900年、外国勢力の排除をめざす中国の民衆が起こした事件。

日英同盟

1902年、ロシアの南下に対抗して日本とイギリスが結んだ同盟。

満州

中国東北部の広い地域。ロシアが大軍をとどめた。

日清戦争で清の弱さが明らかになると、列強は清から鉄道をしく権利や港を借りる権利を得て、勢力範囲を広げた(中国分割)。1900年、外国勢力の排除をめざす民衆が北京の各国公使館を囲む義和団事件が起こると、日本やロシアを中心とする列強は軍隊を送ってこれをしずめた。

ロシアは事件のあとも満州に大軍をとどめ、韓国にも勢力をのぼそうとした。ロシアの南下を警戒したイギリスは、1902年に日本と日英同盟を結んだ。国内では開戦を求める声が強まる一方、キリスト教徒の内村鑑三や社会主義者の幸徳秋水らは戦争に反対した。

2 日露戦争とポーツマス条約

ポーツマス条約

日露戦争

1904年に始まった、日本とロシアの戦争。

ポーツマス条約

1905年に結ばれた、日露戦争の講和条約。

与謝野晶子

戦場の弟を思う詩を発表した歌人。

日比谷焼き打ち事件

賠償金のないポーツマス条約への不満から起こった暴動。

1904年、日露戦争が始まった。日本は多くの戦死者を出しながらも戦いを有利に進めたが、戦費は増税や借金でまかなわれ、国民の負担は重かった。歌人の与謝野晶子は、戦場の弟を思う詩「君死にたまふことなかれ」を発表した。

日本の国力は限界に近く、ロシアでも革命の動きが起こったため、1905年、アメリカの仲立ちでポーツマス条約が結ばれた。ロシアは韓国における日本の優越権を認め、旅順・大連の租借権、長春以南の鉄道の権利、北緯50度以南の樺太(サハリン)を日本にゆづった。しかし賠償金は得られず、不満をもった人々は東京で日比谷焼き打ち事件を起こした。

日本の勝利は、欧米の支配に苦しむアジアの人々を勇気づけた。一方で日本は、こののち韓国への支配を強めていった。

義和団事件
1900年

日英同盟
1902年

日露戦争
1904年

ポーツマス条約
1905年

問いへの答え

義和団事件のあと満州に大軍をとどめたロシアに対抗して、日本は1902年に日英同盟を結び、1904年に日露戦争を始めた。1905年のポーツマス条約で韓国での優越権や南樺太などを得て、日本は列強の一員とみなされるようになった。しかし賠償金はなく、国民の重い負担への不満から日比谷焼き打ち事件が起こった。

次はノートで、下線に語句を書きながら確かめよう →

